

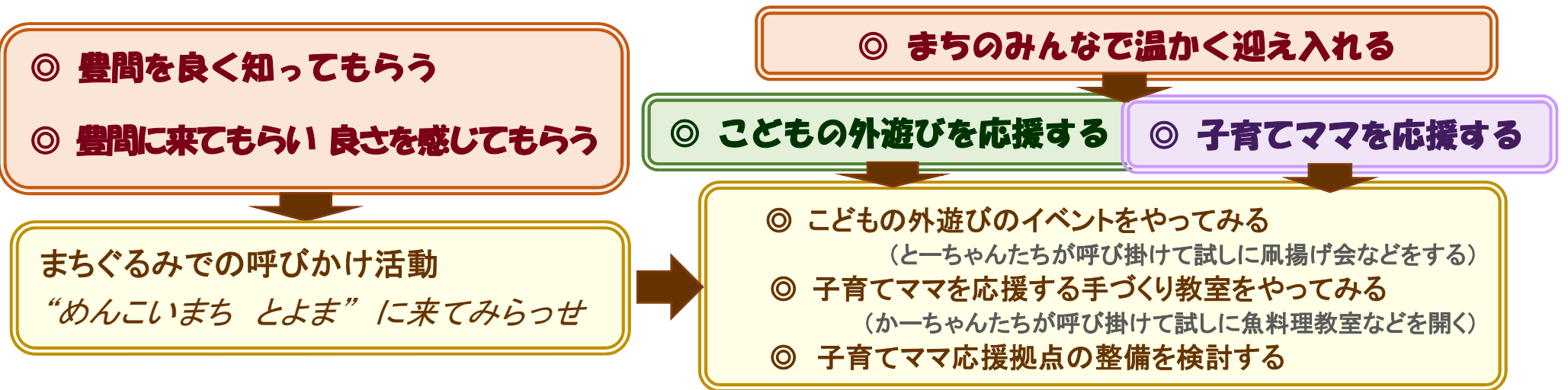
**ふるさと豊間復興協議会 の活動 これからが正念場、新たな活動に どう取り組むか を考える**

これまで6年間の復興事業	2011年→2016年	<b>市</b>	災害公営住宅、土地区画整理事業、仮設店舗、防災公園、観光交流施設(駐車場70台)	<< これまで6年間の“ふるさと豊間復興協議会”の活動 >> << 目標 >> ; ◆ 一刻も早い住民の帰還を目指す ◆ <u>コミュニティのと産業の再生</u> を図る 目標に向け、復興事業について、行政との調整、住民間の調整を主に担ってきた << 成果 >> ; ◆ 高台を含めた土地区画整理の復興プランの実現 ◆ 災害公営住宅への希望者全員の入居 ◆ 仮設店舗の開設と協働店舗の運営 ◆ 住宅再建個別相談の実施による帰還者の確保
		<b>県</b>	仮設住宅、堤防、防災緑地、港湾、河川堤防、広域道路	
		<b>国</b>	新しい東北先導モデル事業(協議会活動の支援)2013~2015年 ※2016年の協議会支援は赤い羽根助成金	

これから6年間のまちづくり	2017年→2022年	<< 残された課題 >>	<< これから(6年間)の豊間の復興まちづくり >> —— 豊間の特色を生かす —— —— 自分たちができることをしてみる —— ※産業の再生の見通しは立たないので当面はベッドタウン ◎人の温かさが残る ◎気候温暖、素晴らしい自然、 ◎整備された未利用の宅地がある 割安な地価 ◎市内の子育て世代は住宅取得が困難 << 新たな目標 >> ; 新しい宅地に新しい住民を迎え入れる、子育て世帯150戸の定住をみんなで進める 「めんこいまち とよま」 ◆ こどもらが日本一めんこく育つまちを目指す ◆ 子育てママをまちぐるみで応援する ◆ 若い世代がチャレンジできるようにする
		◆50戸にとどまる見通し → 未帰還者 150戸 震災前620戸→現在420戸→住宅再建者50戸=未帰還者150戸 ◆高齢化率急増 → 未利用地が増加 ◎人口が急減し、次世代を担う若者がいない、自治活動困難に ◎人が増えなければ店舗も医者も来ない ◎宅地、農地等の管理が困難に(雑草だらけ) ◆産業の再生 ◎災前にあったかまぼこ工場(7軒)、民宿(7軒)の再開は1~2に留まる見通し。新規立地も現段階では見通せない。 ◎漁業や農業の振興の見通しもない。 ◎国立病院跡地や市有地への産業誘致の見通しもない。	

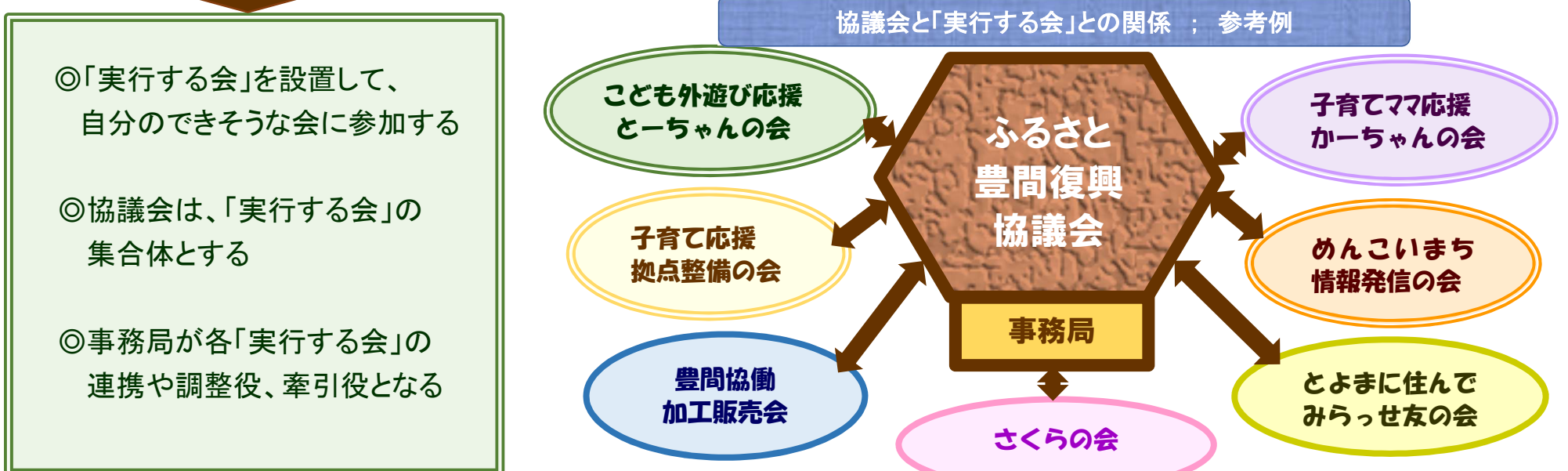
これからの6年間、じっちゃんもばっちゃんも若者も、一緒になって子育て世代を温かく迎え入る、そしてその世代が次の豊間を担う

**これからの6年間 子育て世帯150戸の定住に向け みんなでどのようなことをしていくか?**



**ひとり、ひとり 地域みんなが活動に参加しよう!!! → 「実行する会」への参加**

協議会と「実行する会」との関係 ; 参考例



- ◎「実行する会」を設置して、自分のできそうな会に参加する
- ◎協議会は、「実行する会」の集合体とする
- ◎事務局が各「実行する会」の連携や調整役、牽引役となる